

第 16 回 着氷研究会に参加して

JAXA が中心になって行われている着氷研究会が、2017 年 6 月 21 日（水）に開催された。場所は、山形県新庄市にある国立研究科学法人 防災科学技術研究所 雪氷防災研究



センター 新庄雪氷環境実験所でした。前日に入りましたが、午前中の講義の後でしたので、飛行機もなく、新大阪より東海道新幹線、東北新幹線で行きました。12 時発で、山形市に 18 時前に着きました。それから各駅の新庄行き（4 両編成）に乗ったのですが、大阪の朝の満員電車なみでした。高校生の帰宅ラッシュに合い、大変でした。やっとの思いで、

19 時 15 分頃に新庄駅に着きました。東北有数の豪雪地帯であるため、雪氷防災研究センターは新潟の長岡市以外に実験所が新庄市にあるそうです（雪質が違う）。

翌日、朝から小雨を振っている中、会場の実験所に向かい、着氷研究会に参加しました。この実験所では、人工の降雪機（下段左）があり、自然の雪質と同じものを降らせることができる施設がありました。見学した時には、1℃の部屋だったので、寒くて長い間、見学はできませんでした。降雪機の横には風洞装置（下段右）があり、吹雪を再現でき、当日は防風林の模型を使った実験をしていました。この降雪機では雪を降らせた後に、雨も降らせたり、晴れたりさせて、雪崩の現象も再現できて、どのようなメカニズムで発生するかも研究しているそうです。



16 時に着氷研究会が終わった後、私と学生は、大阪に帰るために、17 時 12 分発の東京行き新幹線に乗りました。20 時 42 分に無事に東京に着きましたが、21 時東京発の新幹線に乗り換えました。東北新幹線に乗っている時に、すでに東海道新幹線が遅れているとの情報があり、ついには止まっている状態になりました。丁度、高槻市内の新幹線の架線の断線が要因でした。21 時 10 分に東京に出発した新幹線は、新横浜駅で立ち往生でした。その間に、アナウンスではいつ復旧するか分

からないので、旅行を取りやめてほしいと言われました。学生は夜中についても帰れないので、新横浜で 1 泊させました。私は、翌日 1 限目が講義でしたので、そのまま新幹線内で待っていました。24 時 45 分に、架線断線の修理が終わり、30 分以上過ぎて、やっと乗っている新幹線は、新横浜を出発しました。そのまま順調であればよかったのですが、京都駅付近で、新幹線車両が 10 台も待っている状態であったので、何度も止まっていました。やっとの思いで、京都駅に夜中の 3 時 45 分頃に着きました。その先もいつ新大阪に着くか分からなかったので、京都駅で下車しました。お陰で、17 時 12 分に乗ってから、京都までに 10 時間 30 分もかかっていました。このような経験は、偶然ですが、非常に貴重な経験で、この時間があれば、飛行機でヨーロッパにまで行けるのにとふと思いました。お陰様で、始発の近鉄に乗り、自宅に着いたのは朝 6 時過ぎでした。1 限目に間に合って、良かったです。

今回の着氷研究会は、研究会の内容よりも、新幹線の不通の方が印象に残った 1 日でした。